

# 巻頭言

## 「去年と今年」

理事長 新谷友良

高浜虚子の有名な句に「去年今年（こそことし）貫く棒の如きもの」があります。去年の多くの反省から、今年に貫かれるようなものを探していましたが、そんなものは簡単に見つからず、途方に暮れているうちに2月になりました。

少し焦りもありますが、去年の終わり頃から書き取りの練習を続けています。以前この欄にも書きましたが、自分の書いた字や文章が自分で読めないという有様は、周りの人に対しても自分に対してもとっても恥ずかしいことと思います。書き方は幼稚園・小学校の頃から教えられて、「しっかり練習をしないと大人になって苦労するよ」と親にも先生にも何度も言われました。それがこの有様で、書き取りの練習をしながらその時の小言を今になって噛みしめています。

「きれいな字」を書くためには①両手をハの字に開く②肩の力を抜く③背筋を伸ばす④こぶしひとつ分の隙間を開ける⑤足は床にぴたりとつける⑥指先に力を入れず、つまむように持つ、と横浜国立大学の青山浩之先生が書いています。そして⑦字の外形を意識⑧隣り合う隙間を均等に⑨字の中心をそろえる、という具体的なアドバイスが続いています。

ここまで教えていただければ必ずできるはずと、書き取り練習を漢字検定のテキストに沿って、3級、準2級、2級と進めました。筆順のわからないものは、スマホにダウンロードした漢字アプリで確認しました。しかし、便せんに文章を書きますと以前のままで、上達の跡が見えません。

最近その理由について考えることが度々で、原因らしいものが二つ思い付いています。一つは字の大きさが不揃いで、まっすぐに書けていないこと。文章を便せんの罫線に沿って書いているのですが、一字一字の大きさがバラバラで、罫線の中で文章が必ず右にカーブしています。上手な人の書いたものを見ると、一字一字はそんなにきれいとはいえなくとも、一字、一つの文章、便せん1枚がとっても真っ直ぐで気持ちよく読めます。

二つ目は、せっかちに書いていること。早く書こうとして漢字一字一字を不正確なまま書いています。正確に書けないところをごまかして書いていると思います。青山先生は「相手のために書くという考えを忘れずに文字を習得してほしい」と書いています。文字を丁寧に書くこと、人との交わりを丁寧にすることを改めて考えてみたいと思います。